

令和8年3月

砧中学校 関係者の皆様

砧の学び舎 世田谷区立砧中学校

校長 加藤敏久

令和7年度 学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策

はじめに

本年度の学校関係者評価においては、学校生活や行事に関する肯定的評価が生徒・保護者ともに80～90%台と高水準であった一方、「学ぶことは楽しい」に否定的な回答を示す生徒が約2割強存在すること、また保護者アンケートでは設問によって「わからない」の割合が25%前後に達するものが見られ、直接来校しなくても理解できる情報共有の在り方が課題であることが示された。さらに、地域からは学校の情報発信や安全に関して高い評価が寄せられる一方、挨拶に関する評価では否定的見解も一定割合示されている。

1 学習について

「学ぶことは楽しい」に関する生徒の否定層に着目し、校内研修や相互授業参観などを通して要因把握（難易度・活動形態・評価観等）を行う。また単元・題材冒頭のゴール明示、選択肢のある学習活動、メタ認知的振り返り、非認知能力の育成を標準化し、学びの楽しさや自己肯定感の底上げを図る。

2 学習指導について

教員への研修促進および校内研修を通じて、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する授業力を一層向上させる。授業の様子はホームページでの発信をさらに充実させて、直接来校しなくても理解できる形で可視化する。

3 学校行事について

「生徒の声を活かす行事計画」を大切にし、意欲・達成感・満足度の高さを維持できるようにしつつ、行事等への参加が苦手な生徒にも達成実感が得られるよう、運営・広報・安全・記録等の多様な役割を工夫し、全ての生徒に対して参加への充実感を味わわせるようにする。また学校運営協議会やPTA等の意見も参考にしつつ、目的の明確化による学習効果の向上を目指し、納得感を高める。

4 部活動について

「楽しい」「達成感がある」という高評価を維持するために、外部指導員の積極的な採用を進めるとともに、地域移行・連携による持続可能な活動を目指し、学校・地域・保護者の役割分担、安全管理、施設利用等について明確にする。

5 生活指導・キャリア教育について

生活指導は、生徒の意見を聞きながら、背景（安全・学習権）を説明する対話型を進めていく。「ルールは遵守して当然」という考えにならないように、教員間でのコンセンサスを維持する。

キャリア教育は、1年でのICT機器の活用基礎・自己理解、2年での職業講話・マナー講座・都立高訪問授業・職場体験、3年では高等学校教員による説明会等を体系化し、継続的な活動としていく。また「世界へ！未来へ！砧中学校」のスローガンのもと、地域、学び舎と連携した国際交流として言語活動・文化理解・探究活動のさらなる充実を目指す。

キャリア・パスポートは夏・12月の教育相談で活用し、保護者とも共有し、進路についての意識を高めさせる。

6 その他について

ICT・AI活用は校内研修や教科部会で効果的な使い方を整理し、学習習慣形成と学び直しに生かす。学び舎連携は小学校でのあいさつ運動や相互情報発信を継続する。来校せずとも参観できる形を工夫し、学校評価における保護者の「わからない」という回答率を縮減する。

7 学校からの情報提供について

ホームページを活用し、現在の生徒の様子や学校の雰囲気をごまめに知らせていく。特に行事の際には生徒の様子その他、進捗状況などについても配信し、オンラインでも「今の砧中」の学びが伝わる状態をつくる。

8 学校の安全性について

「学級経営は人間関係づくり」を基盤に、いじめの未然防止と多様性の尊重を徹底し、安心・安全な環境づくりを常に意識する。また避難訓練は事前連絡なし、余震・けが人・休み時間・Jアラートを想定した多様なパターンで実施する。また避難所運営委員会との定期的な情報交換を進めていく。

9 地域との連携について

地域からの高い評価を維持しつつ、挨拶に関する課題認識等を共有し、生徒会主導であいさつ運動を実施する。またホームページでの学校行事の案内・結果発信を継続し、地域の方々への広報・周知を図る。地域ボランティアについてはロイロノートなどの活用により、参加率の向上を目指す。併せて学校運営協議会のスタートに伴い、さらなる地域との連携を推進する。

文責 副校長 阿部 暁 / 教務主任 花本 宣広